

活動報告書

報告者氏名： 金子 幸恵 所属：筑波大学附属桐が丘特別支援学校 記録日：平成 25 年 2 月 28 日

【対象児（群）の情報】

- ・ 学年 小学部 5 年
- ・ 障害名 先天性多発性関節拘症
- ・ 障害と困難の内容

対象児童は先天性多発性関節拘症であるため、首から下の身体については、腰を上下左右に少し動かす以外には、身体のほとんどの関節の稼働域はない。そのため、身の回りの日常生活動作学習動作については、すべて口で行っている。そのため、首や口の動きを使った粗大運動は可能であるが、微細な動きについては、本人がしたくても実現することが難しい場面がみられる。そしてこうした状況が、対象児童にとって物事を遂行するに当たり得られる達成感を自己実現の経験に繋げることが乏しく、また、年齢とともに自己肯定感を持ちにくくなっている様子がみられる。

【活動目的】

- ・ 当初のねらい

対象児専用のモバイル末端機器は所有しておらず。自立活動等で、学校が所有している iPad を使用し学習を進めていた。また、操作の際には、タッチパネル用の電動ペンの根元に、口でくわえやすいよう樹皮をつけた補助具を作成し、iPad の操作性にもだいぶ慣れてきたところもあり、本人用の iPad を持つことで、家庭や学校等で生活の幅を広げ、また、補助具・自助具としての活用を定着させる。

- ・ 実施期間 平成 24 年 6 月 26 日～平成 25 年 2 月 28 日
- ・ 実施者 金子幸恵
- ・ 実施者と対象児の関係
担任

【活動内容と対象児（群）の変化】

・対象児（群）の事前の状況

日常生活動作の多くを他者に依頼し、援助を受けることで生活が成り立っている対象児童は、物事に対する興味・関心が狭かったり、何かに挑戦する前から「どうせ僕は無理だから・・・」というような発言も多くみられたりする状況であった。

授業場面や会話場面において、伝えたいことの要点がまとまらずに話すことが多かった。

・活動の具体的内容

1. 余暇活動

「自分の行きたいところに行ってみる」ということを目標にし、事前に以下の三点について iPad を使用し調べさせた。

①行きたい場所を決める②行きたい場所について調べる③目的地までのアクセスを調べる（ナビタイム）

2. 学校生活

自立活動で、メールによる報告活動を行った。最初は標準アプリであるメールを使って文字入力による送信であったが、最近は音声入力によるメールを実施するため、Drgon Dictation を利用している。

・対象児（群）の事後の変化

行きたい場所に、自分で計画を立てて外出する経験をしたことで、移動手段として電動車いすを使用している場合の外出先におけるバリアフリー状況の確認をしたり、外出先で取った写真や動画を編集して、学級の友達に作品を紹介することができた。

メールでの報告を毎週行うことで、伝えたい事柄の要点を頭の中で整理した報告が出来るようになってきた。また、委員会活動や総合的な時間において、調べたデータはアプリを使って整理（棒うグラフや表）するなど、様々な場面で積極的に活用することができた。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

対象児の個別の指導計画における中的な課題は「様々な活動を通して、自己肯定感が持てる適切な支援とその評価」である。今年度 iPad を補助具としてしようにし、自分のやりたい活動を実現させるための補助手段として活用できるようになった。

・エビデンス（具体的数値など）

お示しできる量的データはありません。

・その他エピソード（画像などを含めて）

音楽の時間では、運動会の応援歌キーボードのアプリを使って合奏の練習に取り組んだ。また、居住地校交流（地域の小学校）先の音楽の授業でも、iPad を使って合奏に参加した。

